

生ごみの減量・再資源化施策に関する市民説明会 概要
【上田中央地域】

1 開催概要

開催日時	令和 6 年 1 0 月 3 0 （水） 18:30～20:05	
開催場所	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 多目的ホール	
出席者	市民	54 名
	行政（市職員）	環境部長、ごみ減量企画室職員 4 名 資源循環型施設建設関連事業課職員 1 名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	計画	焼却施設をコンパクトにすることを目的に掲げているが、3 万 2 千トンの可燃ごみのうち、僅か 1 千トン減らしても、施設規模はほとんど変わらないのではないか。 ・生ごみとして出して良いのであれば、市民は自分事として考えない。生ごみは自家処理ができる唯一のごみのため、段ボールコンポストばっくん等を広めた方が自分事になるし、コストも安くて良いのではないか。	市としては、全市民がごみ問題を自分事として考えていただき、できる限り焼却施設をコンパクトにしたいと考えている。他市の事例では、生ごみの分別収集により、市民のごみに対する意識が高まり、他の紙類等についてもごみが減少するといった相乗効果も見られている。 ・ばっくんや生ごみ処理機などを活用して、自家処理を優先していただきたいが、アパート等ではどうしてもできないという方もいるため、分別収集による堆肥化処理を検討してきた。
2		建設費や維持管理費は高額だが、これから人口減少社会となるため将来世代への負担は増えていく。 上田市は全国的に見れば既にごみが少なく、生ごみを分別すると手間も増えるため、堆肥化施設の建設は反対である。	資源循環型施設建設のためには、更なる減量が必要である。資源循環型施設周辺地域の皆さまだけが負担を負うのではなく、市民全員でごみを減らすために必要な事業と考えている。事業費については極力抑えるよう精査してまいりたい。

3	計画	様々な地域に住んでいたが、上田市は分別が厳しく、ごみ袋の価格も高い。既にごみの負担が大きい、更に生ごみ分別の手間も増えると大変。特に高齢者は大変だと思うが、どのような考えでこの計画としたのか。	上田市はリサイクルの推進など環境に配慮しているため、県外の自治体と比較すると分別が厳しくなっている。 生ごみと異物を分離する破除袋機の導入や生ごみ袋をプラ製にするなど、市民になるべく負担がかからないようにしてまいりたい。
4		生ごみの減量に特化すると、ごみの水分量が減り、焼却炉が傷みやすくなるのではないかな。	昔はプラスチックの燃焼により焼却炉の温度が上がり傷みやすいということがあったが、最新の技術では高い温度の燃焼でも問題ない施設となっている。施設は、生ごみの割合が少なくなる想定で設計する予定である。
5		生ごみは長和町と同様に下水汚泥と混合処理すべきである。現状、下水汚泥は下水処理場にて多量の燃料により焼却処理され、焼却灰の処分費用も発生しているが、生ごみと下水汚泥が混合処理されれば、牛ふんの購入費用や下水汚泥の焼却に係る費用が削減されるばかりでなく、下水汚泥焼却に伴うCO₂も削減される。 上田市の目標である「ゼロカーボンシティ」達成の一助になるばかりでなく、様々な費用削減も図れる。	資源化の方法については、市民の方を交えて、飼料化や下水汚泥と混合したバイオガス化など様々検討してきたが、上田市は農業利用できる土地も広いことなど総合的な評価から堆肥化を選択した。 下水汚泥を利用したバイオガス化についても将来的な検討事項として考えてまいりたい。
6	コスト	堆肥化施設建設のコストを考慮すれば生ごみ処理機やコンポストを格安か無料で配布してはどうか。	生ごみ処理機を無料配布した場合の試算を行ったが、処理機は寿命があり、施設建設より高額になる試算結果となった。また、実際に使用しているかの把握が難しく、減量効果の判断も難しいと考えている。

7	コスト	・コストがかかる箱モノを建設するのではなく、ごみ袋の値上げなど他の手法を検討してはどうか。レジ袋の有料化により多くの人がマイバッグに切り替えたように、ごみ袋が値上がりすれば必死でごみの減量に取り組むと思う。 ・ごみ袋値上げによる収入で減量化機器補助金の予算を増やし、市民に利益が戻ってくる仕組みにすれば良いのではないか。	・ごみ袋の値上げは有効な手段であるが、生活に直結する内容であり、市民に受け入れていただくことは難しいため慎重に検討してまいりたい。 ・ご参考にさせていただきたい。
8	減量目標値	・可燃ごみの目標値は、令和9年度に 28,900 トンとあるが根拠が分からない。 ・新たな焼却施設の規模が 144 トン/日の根拠が分からない。 (誰でも理解できる資料としてほしい)	・上田市ごみ処理基本計画で掲げる目標値であるが、過去のごみ処理量の推移や人口減少を加味したうえで、更にごみの減量を進めていくことを含めた減量目標値となっている。 ・144 トン/日は広域連合全体の受入量であるが、内訳は、132 トン/日が可燃ごみの受入量で、残り 12 トンは災害廃棄物として見込んでいる。 132 トン/日を年間受入量に換算すると、設備のメンテナンス等を考慮して、約 3 万 5 千トンとなる。現在は広域連合全体で約 3 万 7 千トンのため、更に約 2 千トンの減量が必要な状況である。上田市だけで見ると、現在 3 万 2 千トンの可燃ごみを令和 7 年度に 3 万トンまで減らすことで 144 トン/日が達成できる。

9	生ごみ袋	・生ごみ専用袋はマイクロプラスチックを考慮すると生分解性がよいと思うが、どんな袋を使用するのか。 ・生分解性袋は価格が高いため、生ごみを直接バケツに入れて、バケツごと回収するのはどうか。	・次の3点の理由から生分解性袋ではなく、通常のポリエチレン袋を予定している。 ① 原価が高く、市民の費用負担が大きい ② 長期間生ごみを入れておくと袋が溶けて液漏れするリスクがある ③ 使用期限が製造日から1年間と短い ・中心市街地はバケツの置き場がないことや臭気、洗浄などの問題があることから、プラ袋に入れて出していただく計画としている。
10	施設寿命	新たな堆肥化施設と焼却施設の寿命は何年か。	・両施設とも15～20年後を目安に設備の更新や修繕を行い、35年程度を想定している。
11	環境目標	焼却に比べCO2排出量が年間10トン減少するということが、僅か6人が1年に排出するCO2量と同じため、効果が小さい。	効果が小さいということはあるが、CO2を減らすことは大変であり、ゼロカーボンを考えるきっかけ作りになることも期待している。
12	収集品目	落ち葉や枝木もある程度可燃ごみとして出されているが、堆肥化できるはずなので、生ごみ指定袋に入れてよいのか。	一般的な生ごみのみを予定している。落ち葉については検討してまいりたい。枝木はクリーンセンターに持ち込んでいただくと、有料ではあるがリサイクルしているため、そちらをご利用いただきたい。
13	説明会	有機物リサイクルということでコンポストによる堆肥化の説明会だと思っていたが、焼却量を減らすために堆肥化施設を建設する内容でがっかりした。	説明会の趣旨が伝わらず申し訳ない。コンポストの説明等については、本説明会とは別で検討してまいりたい。

14	説明会	他市町村の堆肥化施設の状況や堆肥の効果等をもっと説明した方が良い。	今後の説明会等で説明できるよう検討してまいりたい。 なお、東御市では生ごみの収集量が約年間約 500 トンであるが、生ごみ以外の可燃ごみも約 500 トン減少したと聞いており、市民意識の高揚による相乗効果がある。
15	その他	可燃ごみの内、布類の割合も高いが分別収集によりリサイクルできないか。	リサイクルできる布類は、エコハウスでの古着回収や資源回収の古布 17 品目において回収しているためご利用いただきたい。